婦人と新社會

山田わか主筆

十一月號

官民一致の實を失つた緊縮政策

今日の世相と婦人

許婚期の精神的準備

感ずるまゝ

産兒制限問題に付て再び

昭和四年十一月一日發行　第百拾六號　每月一回一日發行

東京　婦人と新社會社發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

官民一致の實を失つた緊縮政策

現在の苦しい生活狀態から幾分でも餘裕ある生活狀態に脫出したいと云ふ希望が私共の毎日の努力となつてゐるのは事實です。毎年、年の改まる毎に今年こそは〳〵と願ひをこめてゐてもなか〳〵其の願ひは實現しない。

處へもつて來て經濟國難政府の緊縮政策の聲明で、私自身の收入は半減した。つまり、私の收入の半額を占めてゐた講演と云ふものが、少なくなつた。併し、私はこれも止むを得ないと思つた。國家の危急存亡の場合ひには、自分の肉であり骨であり魂である處の、自分の生命にも替へがたい程、大切な息子を戰線に送らねばならぬではないか。親としての至情を全然殺して、進んで國家に奉公せしめようと云ふだけの氣魄を自分は持つてゐるではないか。して見たならば、國民生活の立直しをするために、今の苦難を忍ぶことは易々たることだ。さて、もう一いきのやりくりを！　と私は決心したのでした。

緊縮政策の大きな痛手を受けて、既でにほぞをかためてゐる矢先きの「官吏減俸」は私には當然のことに思へた。緊縮政策を生命とする現内閣がこれを實行しようとすることは最も當然な論理的歸決であるし、官吏も我々と同じ國民である以上、我々一般大衆と受難を等しくすることは至當だと私は考へた。

我々一般大衆が收入半減に、又は、增稅に四苦八苦してゐる時に、官吏だけが今迄通りの俸給で安んじてゐようとするのは當を得てゐないと思つた。

が、私の要路者に對する要求は、「よし！　減俸を我慢する！」と官吏諸士に云はしむるように、一層の生活苦を快く受諾せしめ得るように、要路者自身の年俸を半減にして頂くことであつた。

その外、物件の徹底的整理、及び、不勞所得なるものを嚴重に制限して頂くことであつた。けれども、その減俸案なるものは一部の猛烈な反對に出遭つて、もろくも其の勢ひに押し流され、かくして現内閣緊縮政策は骨抜きとなつてしまひました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

今日の世相と婦人

米國の大統領マッキンレーガ殺害された時に、此の殺人行爲を評して或る人は云ひました。「世の中には、ともすれば人殺しを敢へてするような人間があると同時に、そんなことはどう云ふ場合ひに遭遇しても斷じて出來ない人間がある。つまり、右と左の先端に兩極端な人間が立つてゐて、そして、その他の右でもなく左でもない人間は時によると右の方に時によると左の方に傾いて行き、極端な人間が持つてゐる特性を增長せしめる。マッキンレーの場合ひでも、どうしても殺してはならないと信じる人間が一方にあると同時に、殺したいと云ふ人間が他の一方にあつて、そして、その人の氣持ちを煽り、ツイに其れを決行せしめたものは中間にある人間である。」と。

東府驛頭に於て、原敬氏を刺した中岡艮一の場合ひでも矢張りさうです。決して艮一一人の氣持ちだけではない。一部の國民のうちにさうした氣分が濃厚に存在してゐて、そして、その氣分に艮一が煽られたと云ふわけです。

今、世人をして呆然たらしめてゐる疑獄事件、よくもこんなに惡いことばかりしてゐたものと世

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人に目をみはらせてゐる瀆職事件も、それが其等當事者のみの責めであるとのみ考へては居られない或るものを私は感じます。さう云ふ瀆職者を出すような氣分が我が國の思想の潮流のうちに濃厚に存在してゐると云ふことに付て私共は深く反省しなければならないと思ひます。

たとへば、誰でも仕事をしようと思ふ時、就職しようと考へる時、商賣を始めようとする時、子供を入學させようとする時でも、何にかの緣故を賴ようろうとする。買物をする時でも、知らない處よりは知つてゐる處、何にかの緣故があれば先づ其處へ行こうとする。さうすることが不都合だと云ふのではありませんが、併し、さうする動機に不純なものがある。つまり、取れるものならば少しでも多くの利益を自分に取り入れようとする。そして、この緣故を賴つて、自分に利益を取り入れることが度を越せば、卽ち、疑獄事件となるのです。

こう考へて來ると、今、世間を騷がせてゐる數々の疑獄事件も一般國民と無關係な出來事ではない。瀆職者だけの單獨な事件として、其の他の國民が批評する位置に平然と立つてゐることは出來ない。

○

罪惡も一ッの社會的現象であります。生物界や物理界に一定の法則が働いてゐるように、社會にも一定の法則が働いてゐます。

丁度、生物界に生殖、物理界に波動があるように、社會には模倣と云ふ法則が存在してゐます。つまり、無秩序のように現れて來る變化即ち發明が繰返へしと云ふ方法、即ち、模倣によつて擴がつて行く現象を呈するのが社會であります。

反復と云ふ現象、云ひ直せば、模倣の法則が社會を造つてゐるのです。從つて、社會的事實に對する科學の對照となるものは此の模倣と云ふ法則です。

社會的に見れば、あらゆる現象が發明にあらされば模倣であります。發明を山と見たてれば模倣は其處から流れ下る川のようなものです。

ものは偶然に生み出されるように人は思ひがちでありますが、決してさうではなく、創造や、變化即ち發明と其等の源泉は一定のリズムに從つて波及する模倣によつて造り出されてゐます。此の波及して行く模倣と云ふことを除いては、社會的事實と云ふものは考へられません。

罪惡も一ッの變化であり發明であります。そして、此の罪惡が增加して行くのは模倣によるので

す。最初は小さな變化卽ち發明であつたかも知れません。卽ち、本能によつて刺戟されて慾望が動き出した。そして、その慾望の滿足が不正な道に從つて得らるれば、社會は其れに倣ひ、不正な道に從つて本能の滿足を得ることがどん〳〵殖へて行きます。それに反して、正しい道に從つて其の慾望の滿足を得るものがあれば社會は其れに倣ふ。そして、秩序正しい社會が形成されます。

欲望の滿足を正しい方法によつて得ようとすることが善良な動機であり、不正な手段によつて滿たそうとすることが罪惡であります。

人は誰でも、又、いつでも、自分の慾望を滿たそうとするに當つて、正當な方法で行かうか、不正な方法でもかまはず進んで行かうかと云ふ岐路に立つてゐます。そして、その時の社會の氣分が不正に行く方に濃厚であれば、模倣の力によつて直ぐ不正な手段に出て行きます。それに反して、不正は斷じてしてはならない。正しい手段で行かなければならないと云ふ氣分が濃厚であれば正しい道に出て行きます。

が、幼少の時から正當な方法でなければ慾望の滿足を得てはならないと云ふ習慣が確固としてゐればどうしても正當な道でなければ出て行かないからこう云ふ人の動きこそ其の人自身のためにも

社會のためにも、必ず、利益を伴ふのでありますが、さう云ふ人の數は割り合ひに少なく、右へでも左へでも其の時々の社會の氣分によつて動かされて行く人が多いので、社會に問題は絶へないのです。

今回の數ある疑獄事件の當事者達の如きも、此の法則に決して例外ではありません。こう云ふ事件を起す動機なるものに溯つて見れば、幼少の折から不正な手段で滿足を得てはならないと云ふ確固とした習慣がない。不正でも何でも自分の欲望を滿たして來た習慣の延長が此の疑獄事件であるのです。そして、其の習慣は家庭で形成されてゐたのです。

ですから、此の疑獄事件を、單に、政黨に對する非難とし、又は、大官連の一時の出來心のように斷定してしまうことは當を得てゐない。其の原因は遠く、彼等の幼少の時の家庭に芽ばへてゐたと見なければなりません。

多くの家庭に、正不正の手段を選まずに慾望の滿足を得ようとする氣分が充滿してゐる。そして、相互の模倣の波動は、ラジォの電波よりも、もつと濃厚に相互に働きかけてゐる。蔓をたぐればたぐる程、不正の芽が續々と出て來るのも、蓋し、當然ではありませんか。

今日の社會の一般の氣分と云ふものは、出來るだけ勞苦を少なくして、出來るだけ多くの報酬を得よう。出來るだけ僅かな金で出來るだけ多くの物を得よう。勉學や研究の辛苦を嘗めずして卒業證書や學位を得よう。云ひ直せば、一攫千金、濡手で粟を夢みてゐる世の中であるのですから、こう云ふ空氣の中で、少しでも人に勝つた頭を持つてゐたり、又は、高い位置と金儲けに都合のよい機會が與へらるれば、すぐに其れを利用するようになるのです。

故に、私共は、今回の疑獄事件を見て、唯、呆然として眺めてゐてはならない。又、對岸の火事視してゐてもならない。或ひは、又、彼等の行爲を憎んだり憤慨したりしてばかりは居られない。もし、私共が、單にさうした態度であつて、さう云ふ罪惡のよつて來る源を考へずに、自分等の思想潮流に付て反省する處もなかつたならば、こう云ふ疑獄事件が跡を絕つことは無いでせう。

私共國民は、殊に親たる者は、其のうちでも母親は人間の行爲の一切は模倣によつてゐることを悟り、そして、子供達の慾望は正當な方法によつてゞなければ滿足を得てはならないことを徹底的に敎へ、導かねばならないと私は考へてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

許婚期の精神的準備

許婚時代は人生に於ける先づ最も幸福な時でありませう。花ならば將に開かうとする美しい蕾の時代であるように思はれます。

だが、世の中がだん／＼忙しく、だん／＼世智辛くなつて來るに連れて、其の上に、過激思想が人々の頭に浸潤して行くに連れ、結婚と云ふことが輕視されるようになり、從つて、許婚と云ふようなことも、ブルジョア階級の一種の遊戯のように目されるような傾向にさへなつて來てゐます。

事實に於て、又、許婚と云ふ言葉は、昔はとにかく、現代では、主もに所謂高貴な階級や富裕階級のうちで用ひられる言葉であつて、中流以下、少なくとも其の日暮しの者にとつては、とうてい手の屆かない高嶺の花でありませう。

暮し向きに心配のない奥さん達こそ、まだ、膝の上の子供を見て「此の子が婚約するような時になつたら」などと、遠い將來のことを夢みる餘裕を持つてゐると云ふようなわけですが、中流以下の生活に追はれてゐる親達は、婚期にも達してゐない娘の婿などに付て考へてゐる餘裕は持たない。目前のことにあくせくしてゐる間に、娘はもう婚期を逸しそうになつたとあはてふためくのが先づ通常でありませう。ですから、さう云ふ家庭の娘達が「許婚」と云ふ言葉を口にする時には、それは雲上の出來事か、又は、昔の美しい物語、卽ち、世智辛ひ此の現實の世界とは別な世界に深い戀心に醉ふた二人の

美しい男女を相像します。

そんな處から、過激的な思想傾向を持つ者は、結婚及び許婚をブルジョア階級の遊戯のように思ひ做し、それに强い反感さへ抱いてゐます。

且ツ、又、テンポの早いジャズ的な時代の先端を行く若い男女にとつても、許婚と云ふような時間を食ふ事柄はふさはしくないようです。

○

シエキスピーアの劇のうちの一ツの婚約の場面の言葉をとつて見るならば、

靑年　私と此の聖父と共に禮拜堂へ行け、そして、その神聖な屋根の下、此の聖父の前で、お前の心の充分な保證を誓へ、此の妖妬深い、疑ひたがる私のたましいが平和であり得るために。

聖父　汝等の握手によつて確かめられ、神聖な

る接吻によつて證明され、そして、指輪の取りかはせによつて强められた永久の愛の契約、此の約束の凡ての儀式を私の聖なる役目によつて保證するものである。

とあり、そして、これは取りも直さず、英國流の許婚、即ち、婚約でありますが、これは一種の儀式であつて、教會でのこう云ふ批准を經て、それから、音樂と御地走の下に其れが公表され、そして當事者等は夫であり妻であると同樣に遇されるようになる程、確實な關係が成立したのでしたが、併し、今はさう云ふ儀式は大いにすたつたと云はれてゐます。

神の前で、一度誓つた契約は、人間の手で斷じて破つてはならないとされてゐた此の英國流の結婚は、主もに、男子なる夫が主であつて、妻は多くの場合ひ、受動的なイケニエであつた故に、又、我が國の古い習慣であつた親と親と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の氣持ち又は家と家との都合で取り結ばれた婚約は、婚約當事者の意志を全然無視したものでありますから、それに對する反對の輿論が起つたのも亦當然であります。

男女の愛の生活は彼等自身の良心に從つて規定すべきこと、彼等の最も深い情緒的の必要と彼等の發達して行く戀愛經驗に從つて彼等自身の性生活は規定すべきだと云ふ青年男女の權利は主張されました。

社會が又は親が、結婚に於て娘子息を制限する永久の約束は餘まりに度々苦しい鎖であること、そして、耐へ難き關係のうちに人格の發達を阻害する精神と肉體を束縛するものだと彼等は宣言し、そして、その結果は、一夫一婦の結婚制度を呪ふ聲となり、離婚數の増加となりました。

そして、こう云ふ思想傾向の結果はアメリカなどには最も著しく現れて來て、婚約當事者達の自由意志の上に成立した約束であつても、なほ、全部の婚約の八割までは破約に終ると云ふことです。

○

歴史的の事實は何であれ、時代精神の主張がどうであれ、又、過激思想家の反感があろうと無かろうと、或ひは、又、許婚と云ふことが流行してゐてもゐなくても、とにかく、一生を共にしようとする將來の良人が選定されて、そして、いよ〳〵新らしい家庭を持つまで、其の準備のために許婚期を費したいと云ふ位置に置かれた娘さん達は此の人生に於て最も幸福な位置にあられると云ふことは此の文の始めにも云つて置いた通りです。

結婚のために、新しい家庭のために準備などをしてゐることは、人間としての價値のない、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人格を沒却した奴隷の生活であるように主張する向きもありますが、こう云ふ問題を考へる時、いつも私の頭に浮んで來ることは、それはフランス人の書いたものゝうちであつたようですが。到底、結婚の望みのない下女奉公をしてゐる若い女が、「男の文句で自分に宛てた戀文を書いて呉れ」と知人に頼みました。その目的を問はれて、「切手を貼つて投函して置くと其の手紙が自分の手許に來る。そして、自分にも戀人があるような心持ちになれるから」と云ふ答へでした。

又、野上彌生子さんのお書きになつたものゝうちに、女史のおうちの女中が赤いてがらや其の他その女中が新妻になる時にいりそうなものを自分の行梨にあつめて其れを唯一の樂しみにしてゐるようだと云ふようなことを讀んだことがありますが、何と可憐な行動ではありませんか。「それは心情の下劣な無知な女のすることだ」と嘲り笑ひ切る人がありますか？

時代精神の主張が何であれ、過激思想家の反感がどうであれ、異性と沒交渉な生活が淋しいのは、全人類の、否、全生物界の事實であります。

〇

さて、そんならば、許婚期にある、全人類のうちの最も幸福な位置にある青年女子は其の期間を最も有効に利用しなければなりませんが、今日までの風習を眺めて見ると、それは全く歯がゆいものばかりです。お化粧の仕方や、着物の柄の選み方や、其の他、遊藝、又は、手仕事のようなものにのみ力をそゝいでゐる、一家の主婦及び母となるための精神的準備が全然等閑にされてゐるようなかたちでありました。要するに、それは、男子の玩弄物としてより多く男

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子に喜ばれるように、及び、男子の家の一個の道具としてより便利に使はれるように準備してゐるのでありますから、さう云ふ狀態には、新らしい時代精神が反抗し、過激思想が反感を持つのも蓋し無理が無いかも知れません。

先づ、女學校卒業程度の方達を目標に云つて見るなら、失禮な云ひ分ではありますが、まだ、主婦となつて一家を切り盛りする資格を持つて御ゐでになりません。ですから、主婦としての資格を造ることに努力すると同時に、もし、商家の主婦になるのであつたら、其の商業に付ての知識、もし、官吏の家の主婦になるのであつたら、官職とはどう云ふものであるかを一通り學んで置きたいものです。

千葉縣農會立家政女學校は農家の主婦を養成することを目的とし、卒業證書の外に『主婦適任證』を渡すので、此の學校の卒業生へは緣談が降るようだと聞きました。又、入學者の資格の最も有力なものは指の太いことであつて、指の最も太いもの卽ち平生より働いてゐる證據を持つてゐるものから取つて行くと云ふのですから、農家の主婦として本當に適任者が出來るわけです。

婚約をした以上は、將來の自分並びに自分一家の生計の基礎となる收入の道は明らかになつてゐるのですから、其の道に付ての知識を得て置かなければなりません。そして、その道に自分の人格の力を打ち込み得るようになつてゐる時に、其の人はもはやその家の一個の道具でもなく、夫からの受動的のイケニエでもなく、文字通りの一家の主婦であります。

○

近時、家庭體操と云ふことが盛んに唱導されて居りますが、それは、誰でも毎日使ふ筋肉は

過度に使ふが、使はない部分の筋肉は少しも使はないために、萎縮してしまつて、其の部分は丁度金屬製のものゝように錆び付いてしまつて其處からいろ〳〵の疾患が起るから、其の疾患を起さないように、二ツには、過勞に陷ろうとする使つてゐる部分の筋肉の疲勞を除去するためと云ふ理由からであります。

で、私はこれをすぐ頭の問題に應用します。からだのうちの全然使はずにゐる部分の筋肉が錆び付いて動かなくなると同様に、腦細胞も緻密に使ふ習慣をつけて置かないと、やはり、錆び付いて動かなくなる。

女學校在學中には隨分腦細胞を働かしたように御自分達では考へて御ゐでになつても、併し、人生の荒浪の中に獨立の考へを持つて立つ時に働かせなければならない時のことに比較して見ると、それは幼稚園の生徒の頭の働かし方と大差ないものと云つてもいゝと思ひます。

その位ひな幼稚な頭で結婚生活に入り、生計の基礎に付ても何にも知らず、何の覺悟もなくあやふやな生活を送つてゐるうちに、母と云ふ重大な任務のある位置に押し据へられる。どうしていゝかわけが分らず、唯、あたふたと氣迷つて、其のまゝ日を送つてゐるうちに子供はだん〳〵大きくなり、知慧が付き、たちまち母の手には余まる者となつてしまう。

働かす習慣を持たなかつた腦細胞は、餘裕を失ふに從つてます〳〵働かなくなり、たちまちにして、ぼけた頭の持主になつてしまう。何と恐ろしいことではありませんか。

そこで、私は、體育の指導者が青年女子に體操を奬勵されてゐるのと同じように、若い方達に、殊に、近き將來に家庭を持たるゝ許婚時代の方達に、その幸福な許婚時代を賢く利用なさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つて、大いに腦細胞の體操に御つとめになることを御すゝめします。

化粧術もいゝでせう。着物の柄ゑらみも悪くはないでせう。又、手仕事の熟練も必要でありませう。けれども、先づ、頭の體操をして、云ひかへれば、讀書や思索に相當の時間を費して、そして、余まつた時間で其の他のことはして頂きたい。

結婚前に、家庭の生計の基礎に付ての知識及び、新時代人としての必要な知識を或る程度まで取り入れて、機に臨み變に應じて適當に働き得る頭を持つてゐるならば母となつてもうろたへることはない。

銷び付いた處のない健康な體が細かく動き得るように、よく體操をしてゐた腦細胞は確實に細かく働き　夫の仕事に付ての有力な相談相手であり、又、日に月に智慧付いて行く子供の善き指導者となることが出來て、文字通り家庭の女王となることが出來ます。

○

最後にもう一つ云つて置きたいことは、今までとは違つて今後の家庭の女王となる若き婦人は社會構造に付ての一通りの知識をもつてゐて、社會人としての資格を造つて置かなければならない。

今日に於て、兵役の義務を國民に强いてゐない國々に於ける青年はスカウト運動に參加しなければならないことになつてゐますが、それは何にか天災があつた場合ひ、たとへば、地震とか、洪水とか、火事とか、鐵道事故とか云ふようなことが突發した場合ひに奉仕し得る修養を積んで置かうとするものです。將來國防と云ふことが不必要になつても、これだけはどうしても必要です。それと同じ意味で、今後の婦人

は、社會構造と共に政治組織、及び、國民經濟の原則にも通じ、社會事業の精神を汲んで置かなければならない。

これ等の知識は國民の母として婦人に直接必要であるばかりでなく、將來の社會の母として持つてゐなければならない　凡ての男子が兵役に服す、でなければスカウト運動に參加する義務があると同じように凡ての女子は社會事業に心を寄せる義務があります

永い間　家庭婦人は　女權主義者から、家庭奴隷と云ふ汚名を被せられてゐました。事實に於て又今日でも奴隷的な婦人が決して少なくありません。が　やがて結婚なさろうとする諸孃は決して奴隷にはならないことを心に御誓ひになると同時に、一家の主婦として母としての知力的精神的の修養と共に社會人としての修養に御つとめになることを希望します。

目ツ。又、一家の奴隷になるのも、女王になるのも社會人としての落伍者になるのも指導者になるのも、それは、決して、顏の醜美でもなく、又、經濟力の有無でもなく　一つにかゝつて頭腦の問題であることを御注意申上げて置きます。

人口と食料

米か豐作だと農民は食ふに困ると云ふ。何と不思議な現象ではありませんか？　とにかく豐作だと米價が馬鹿安價になるのは事實で、政府は米價調節の政策を設けてゐるくらゐです。そして、どんなに米が豐作で安くても都會の細民はやはり食ふに困つてゐる。

この一事によつてだけでも貧乏問題は單に食料と人口の關係ではないことが分ります。解決の道は外にあると私は信じるのです。「細民の問題は細民の範圍で」と云ふ產兒制限論者の解決法から行くと、農民の問題は農民の範圍で解決出來そうなものですが、今の世の中はそう簡單には行かない。そこで、私は解決は「廣い大局から」と考へてゐます。

感ずるまゝ

加藤ひさ

泥にまみれて働いて得た親の金が道樂息子を通して銀座邊のカフエーなどに打ちまかれる」との不合理さは云はずもがなであつてもそれは田舍と都の間の距離に依つて幾分それからら受ける痛い感じは和らげられもするが、目の當り農村の生活狀態を見たり聞いたりするならば、そして、倒れかゝつてゐるのを辛じて支へて居るやうな農家の傍に堂々たる小學校舍の建てられて居るのを見るならば文明國に無くてならない敎育と云ふものがどれ程村人を苦しめて居るかと云ふ事が痛切に感じられる。

どんな田舍の子供達も學校へ行つて居る間は殆ど都の子供達と同じ設備の下に敎育されて居る。若し其處に無理さへなければ之れ程喜ばしいことはない。けれども學校で如何に良い敎へを受けて來ても家に歸つて親達の泣きごとを聞かされた時に子供は何んと感じるであらうか。

勿論學校の先生がたにした處が途方もなく贅澤をして居られる筈もなく又出來得るものでないにしても就職さへして居れば先づ生活の安定は得られる。だから村の青年達が少しでも可能性があれば苦しい農業から離れて先生に限らず何か頭でする仕事をしたいと思ふのは自然である。併し多く働いても少く働いても同じ收入を得られると云ふことがどれ程人間をお役目的にし怠け者にするか知れない。

それに引換へ農業者は少しでも怠ければそれだけ直ぐに影響する、その上如何にあせつても天を相手の仕事でどうする事もできない場合が非常に多い。

米が獲れても獲れなくつても納税はしなくてはならない、食べる物は食べなくても子供は學校へ行らなければならないと云ふ事はどうしても腑に落ちない。胃

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の腑は縮めても頭だけは大きくしなければならないと云ふ理屈があらうか。土臺石である胃の腑が確りして居なければ立派な頭をのせてもひつくりかへる。であるから農村が眞の意味の自治體となつて學校の先生にも村民となつて頂いて、村の收穫の良不良に應じて其收入を上下して頂くと云ふやうなことができたならどれ程お互ひがよくはないであらうか、その結果一村が一大家族となつてどれ程親しみが沸くであらう。

それは兎に角男の子が十二三歳になつて親が養へなければ丁稚奉公に出すとか職人に弟子入させ、女の子ならば女中奉公に出した昔は教養の無い人間を比較的多く社會に送り出しては居ても、又其中からは今時見られないやうな氣骨ある人物や名人を出して居る。そして今食へても食へなくても學校へやらなければならないで苦しんで居る人達に比べてその人達は好い逃げ道をもつて居た。家から出された子供達は頭の教養は別問題として親の膝下に甘へて居るよりは事實上仕事をして居た事も確かである。

子供の勞働は非難すべきであるとしても腹をへらして頭をふくらますよりは働いても滿腹する方が子供達に取つては幸福ではなからうか。

昔、名字帶刀とか云つて儀式の時には裃(かみしも)を着け大小を腰に差し得る人が一村に二三人あつて太郎兵衛八、兵衛達から神樣のやうに尊敬され、寺の坊さんは村の子供を預かつて讀み書きの稽古をしてやる外に尊敬に價ひするやうな色々の仕事をして互ひにもつもたれつして居つた時代の村のなごやかさうるはしさは思ふだけでも樂しい。

どんな身分に生れても才能と力さへあれば國の首相とも成り得る有がたい世の中が人物經濟にどれ程盡して居るか知れないが、其反對に其爲にどれ程國家は損失を被つて居るか知れない。例へば十五六歳になる少年を農業なり工業なり商業なり其外どんな仕事でも實地に就けて置くならば相當價値ある仕事をして居るものに學校へやつて置いてあれもこれもと頭に押し込んで學校を出た時に葉書一本滿足に書き得ないやうな子供を教育すること程ムダはない。親の苦しいのは勿論國家の損失である。

どん栗の丈くらべはせい／＼小學校に止めて置いてそれから先きは親達の英斷が最も必要である。いはゆる他人に對する見えや、高等教育を滅茶苦茶に有がたがる迷信を捨てゝ公明なる頭をもつて我子を判斷するのが最も急務である。

學校さへ建てれば商賣になると云ふことは全國民が腹をへらしても學費を拂ひ込むと云ふことである。誰でも頭は立派にしたい。美人が髮は素晴しく立派に結ひ上げても鼻緒の切れかゝつたペチヤンコの下駄をはいて居るのは見つともなくもあり長道も歩けない。床の間には掛物が掛けてあり花が生けてあつても要所の品物が不足なら淋しい。

斯んな結果になつたのも自分達を養つて呉れる產業者をよぶに百姓と一口に輕蔑するやうな傾向が大きな原因の一つであつたに相違ない。

丁度男が女の腹から生れながら女を賤しめると同樣に自分が養はれて居ながらその養ひ親を賤しんで居たからである。

長い間苦勞してお金を使つて學校を卒業して就職難で青息吐息するよりは肥たごかついで麥飯食つて居る方がどれ程呑氣で高尚であるか知れない。

產兒制限問題に附て再び

無料分娩を申込むために市營產院の門を賑はしてゐるような貧乏人の子澤山を嗤ふ者は世間廣しとは云へ恐らく一人もないでせう。生めよ殖へよ地に滿てよと云ふ言葉は衣食足りた幸福な生活を營み得る人間に向つて云ふのであつて、みじめな生活苦に喘ぐ人間がうよく／＼と增殖する意味でないことは今日の常識です。

が、子供は結果であつて原因は性慾であると云ふことを私共は先づ頭に置かなければなりません。そして、性慾の滿足は飽くまで滿たすが其の結果に對する責任は負はないと云ふことを公認する道德上の弊害を私は

恐れるのです。

例外はあつても、一般的國民精神は、どんなに饑じくても他人のものを奪つては食べない。他人の臺處へさび込んで掴み出して食ふようなことはしない。自分の食ふものに對しては勞力でなり金錢でなり相當の價を支拂はなければならないと云ふ責任觀念があるので、どうやら秩序は保てゝゐた。此處まで人類は向上して來た。要するに、食慾に對してはきびしい制裁があり其のために食慾本能が精練されてゐるにも拘らず、性慾本能の無制裁、無精練が今日の無數の禍患い源となつてゐるのに、その無制裁、無精練を公認することはよろしくない。

さらでだに放縦に流れようとする性慾本能の跳梁を認める、産兒制限を公認することは、有りもしない責任觀念をいよ／＼無にすることになるので私はこれを否定致します。多すぎる子供の費の惡さよりも、國民的道德の低下、その結果の恐しさを私は思ひます。性慾の滿足は得る。が、その結果に對する責任は負はないと云ふことは、食ひたいから食ふが、併し、それに對する仕拂ひ又は勞力は拂はないと云ふことになつて　これでどうして世の中の秩序が保つて行けるでせうか？

又、或る向きは經濟の故に産兒制限を主張すると云はれますが、併し、私は、人間を本位として經濟組織を考ふべきであつて、經濟を本位として人間を考へることは人間侮辱だとも考へてゐます。

（十四頁の「人口と食料」は此の小文の續きとして讀んで頂きたう御座います。）

本誌定價（臨時）		
一冊	金十錢	送料五厘
六册	前金五十五錢	（送料共）
十二册	前金壹圓	（送料共）

昭和四年十月廿三日印刷納本
昭和四年十一月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區岩松町五四
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN